

報道関係各位  
企画展のご案内



fig.1  
展覧会ポスター

広報に関するお問い合わせ: 世田谷文学館学芸部 佐野、原

157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10 TEL 03-5374-9111/FAX 03-5374-9120

## Summary

### いつみても新鮮 誰がみてもかわいい

1970年代後半から90年代にかけて、女子中高生を中心に爆発的な人気を博した「OSAMU GOODS(オサムグッズ)」の生みの親、原田治。

50～60年代のアメリカのコミックやTVアニメ、ポップアートなどから影響を受けたイラストレーション——とりわけ、簡潔な描線と爽やかな色彩で描かれたキャラクターたちは、その後の日本の“かわいい”文化に多大な影響を与えました。

没後初の全国巡回展となる本展では、イラストレーターとして活動する端緒となった、1970年代「an・an」の仕事をはじめとして、広告・出版・各種グッズなど多分野にわたる作品を中心に、幼少期～20代前半の初期資料や、エッセイ集『ぼくの美術帖』関連資料も交えて展示し、時代を超えて愛される、原田治の全貌に迫ります。

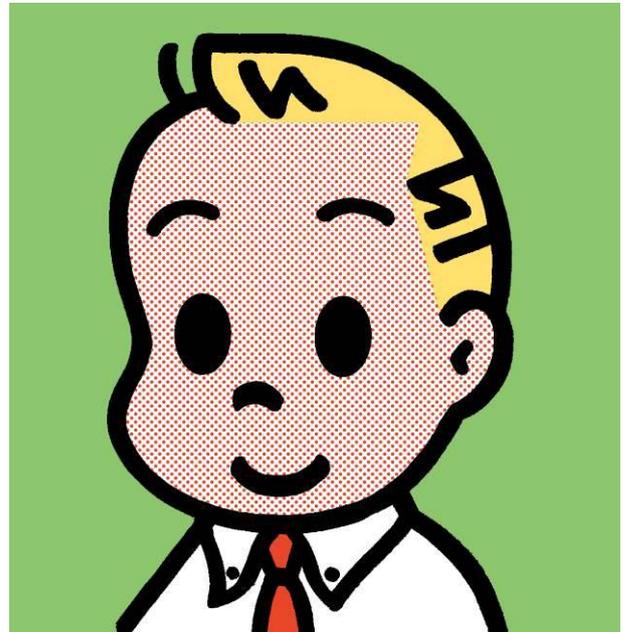


fig.2  
©Osamu Harada / Koji Honpo

## Profile



### 原田 治 1946-2016

東京生まれ。多摩美術大学デザイン科卒業。1970年、当時創刊された「an・an」でイラストレーターとしてデビュー。1976年、「マザーグース」を題材にしたオリジナルのキャラクターグッズ、「OSAMU GOODS」の制作を開始、女子中高生の間で大人気となる。1984年、ミスタードーナツのプレミアム(景品)にイラストを提供、以降シリーズ化され一世を風靡する。1997年、イラストレーターを養成する「パレットクラブスクール」を、生まれ育った築地に開設。主な著書に『ぼくの美術帖』他。

## Topics

終始一貫してぼくが考えた「可愛い」の表現方法は、明るく、屈託が無く、健康的な表情であること。そこに5%ほどの淋しさや切なさを隠し味のように加味するということでした。

『OSAMU GOODS STYLE』(2005年、ピエ・ブックス)より

### Topic1 初公開資料多数。幼少期までさかのぼる、網羅的な回顧展。

たとえ原田治の名を知らずとも、そのかわいらしいキャラクターたちには見覚えがあるはず。ミスタードーナツのプレミアム（景品）を思い出す人も多いでしょう。今回の展覧会では、お馴染みのスタイルが確立する以前の初期の仕事を、幼少期までさかのぼって展示します。すでに画才を発揮していた小学校時代のスケッチブックや、イラストレーターとしてデビューするきっかけになったニューヨーク滞在時の作品など、初公開資料も多数展示します。



fig.3  
「an·an」第47号  
1972年 平凡出版  
アートディレクション：堀内誠一  
表紙イラストレーション：原田治

### Topic2 原田治のスタイル＝「かわいい」を確立したOSAMU GOODS。



fig.4 スクールバッグ 1980年代  
©Osamu Harada / Koji Honpo

代表作であるOSAMU GOODSが誕生したのは1976年のこと。80年代に大流行したキャラクター雑貨やファンシーグッズの先駆けでした。ちなみにハローキティが誕生したのは1974年。70年代半ばに生まれたこの2つのキャラクターグッズが、その後のブームを牽引しました。

当時、原田治は雑誌の取材に対して次のように語っています。

イラストレーションが愛されるためには、どこか普遍的な要素、だれでもがわかり、共有することができる感情を主体にすることです。

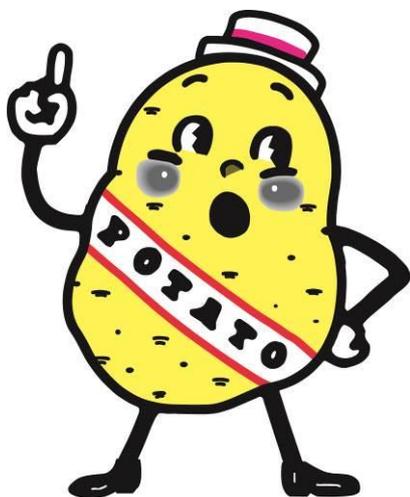
そういった要素のひとつであると思われる「かわいらしさ」を、ぼくはこの商品デザインの仕事のなかで発見したような気がします。

「別冊美術手帖」1983年秋号より

「かわいい」には、時代性や趣味性を凌駕する普遍性があるという発見。今回の展覧会の副題は、この記事が元になりました。

### Topic3 幅広い分野における多彩な仕事を紹介。

原田治は雑誌のカットや書籍の装幀、企業の広告や各種のグッズ、絵本やエッセイなど、幅広い分野において多彩な仕事を残しました。今回の展覧会は、その全貌を見渡す試みでもあります。



参考  
カルビー「ポテトチップス」など  
マスコットキャラクター  
1976年  
作：原田治



fig.5  
浅田彰『逃走論』  
1984年 筑摩書房  
装幀：原田治

### Topic4 展覧会公式カタログ『Osamu's A to Z』（仮題）

今回のカタログは、亜紀書房から出版されます。展示とは構成をかえて、AからZまで26のキーワードをたてて、原田治の作品とバックグラウンドを紹介する内容です。カタログが展示を補完するとともに、展示がカタログを補完します。

#### 展覧会公式カタログ『Osamu's A to Z』（仮題）

240ページ A5判 並製

エッセイ寄稿： 中野翠、土井章史(トムズボックス)、及川賢治(100%ORANGE)

アートディレクション： 服部一成

発行： 亜紀書房 予価： 本体2,400円＋税 会場および全国書店にて販売

### Topic5 会場設計、五十嵐瑠衣。

「デザインあ展」（現在全国巡回中）や「谷川俊太郎展」（2018、東京オペラシティアートギャラリー）など、近年話題となった数々の展覧会の会場構成を担当されてきた、五十嵐瑠衣さんが空間デザイン・会場設計を行います。

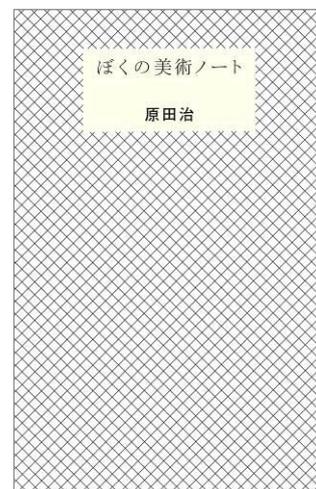
リアルタイム世代から10～20代まで楽しめる、回顧的ではない回顧展にご期待ください。



## Topic6 アートディレクション、服部一成。

今回のカタログや広報物、会場グラフィックなどは、キューピー「キューピーハーフ」の広告のアートディレクションでもよく知られる、服部一成さんがアートディレクションとデザインを手がけます。

服部さんは、原田治が好きだったデザイナーの一人であり、最後の著作となった『ぼくの美術ノート』のブックデザインも手がけています。



参考  
原田治『ぼくの美術ノート』  
2017年 亜紀書房

## Topic7 『ぼくの美術帖』待望の新装復刊。

どんな古い美術であっても、生まれて初めてこの眼で実際に観るということは、常に自分にとってのまったく新しい発見です。

『『ぼくの美術帖』その後』、『ぼくの美術帖』(2006年、みすず書房)より

展覧会の開催にあわせ、『ぼくの美術帖』が新装復刊されます。

本書は原田治が1982年に出版した、最初の書き下ろし美術エッセイ集であり、今回の展覧会でも1つのコーナーを占めます。

古今東西の美術を巡る、遍歴の旅をお楽しみください。

### 『ぼくの美術帖』

発行：みすず書房 定価：本体2,700円＋税

7月上旬配本 会場および全国書店にて販売

\*『ぼくの美術帖』は1982年にPARCO出版から刊行され、その後2006年にみすず書房の「大人の本棚」シリーズの1冊として復刊されました。今回、展覧会にあわせて新装復刊となります。

## Topic8 先行販売や復刻商品もあります。

会期中、ミュージアムショップでは多彩なOSAMU GOODSを販売します。

新作グッズの先行販売をはじめ、昔懐かしい復刻商品まで、多彩なラインナップをご用意しています。

イメージ



# Events

## 1 ポップアップストア

**7月20日(土)、28日(日) 11:00~17:00 1階文学サロン**

オサムグッズコレクターの土井章史さん(トムズボックス)がコレクションをみせびらかし、トレード、ときには販売するスペシャル企画。

お家にひっそり眠っているオサムグッズ(DUSTY MILLER製)や、秘蔵の一品がありましたら、ぜひみせびらかしにきてください。

※ どなたでもご覧いただけます。トレードならびに購入については、当日会場にておたずねください。

**[参加費]無料**

## 2 トークイベント

**8月25日(日) 15:00~16:30 1階文学サロン**

原田治が先輩と呼び慕った盟友、アートディレクターの新谷雅弘さんをお招きして、お話をうかがいます。安西水丸、ペーター佐藤らとともに結成したパレットクラブのことや、共著の制作秘話など、貴重なエピソードを語っていただきます。

[出演]新谷雅弘(アートディレクター) [聞き手]信濃八太郎(イラストレーター) [参加費]500円

[定員]先着150名 [参加方法]本イベントは事前申込制(7月13日正午よりオンラインにて受付)です。申込方法の詳細については、当館ホームページをご覧ください。

## 3 活弁付き映画上映会

**9月14日(土)15:00~ 1階文学サロン**

原田治の祖父、映画監督の二川文太郎の代表作にして、剣戟映画の原点ともいわれる『雄呂血』(無声映画)の活弁付き上映会です。

[上映作品]『雄呂血(おろち)』1925年/阪妻プロ/約80分/サイレント 出演:阪東妻三郎ほか  
[弁士]澤登翠 [参加費]1,000円 ※保護者の膝の上に座れるお子様は無料、座席を必要なお子様は有料です。

[定員]先着150名(全席自由) [参加方法]当日13:00より会場前にて入場券を販売します。

## Outline

- 展覧会名** 原田治 展「かわいい」の発見  
Osamu Harada: Finding “KAWAI”
- 会 期** 2019年7月13日(土)～9月23日(月・祝)
- 会 場** 世田谷文学館 157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10  
TEL 03-5374-9111 FAX 03-5374-9120 www.setabun.or.jp
- 開館時間** 10:00～18:00(展覧会入場、ミュージアムショップの営業は17:30まで)
- 休 館 日** 毎週月曜日(ただし月曜が祝日の場合は開館し、翌平日休館)
- 交通案内** 京王線:「芦花公園」駅南口より徒歩5分  
小田急線:「千歳船橋」駅より京王バス(千歳烏山駅行)利用「芦花恒春園」下車徒歩5分
- 観 覧 料** 一般800(640)円、65歳以上・高校・大学生600(480)円、  
障害者手帳をお持ちの方400(320)円、中学生以下無料  
※( )内は20名以上の団体料金 ※7月19日(金)は65歳以上無料 ※9月16日(月・祝)は60歳以上無料
- 主 催** 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館
- 協 力** コージー本舗、コスモマーチャンダイズィング、トムズボックス、パレットクラブ
- 企画協力** 渋谷出版企画
- 後 援** 世田谷区、世田谷区教育委員会
- 展覧会担当** 世田谷文学館学芸部 大竹嘉彦



fig.6  
HUMPTY DUMPTY  
(OSAMU GOODS用原画)  
1970年代後半

# 原田治 展 「かわいい」の発見 広報用画像貸出申込書

世田谷文学館学芸部 佐野、原 行  
FAX/ 03-5374-9120  
Email/ webmaster@setabun.net

展覧会広報用の画像をご用意しています。ご希望の際は下記貸出条件をご確認のうえ、本申込書に必要事項をご記入いただき、ファックスまたはEメールにてお申し込みください。Eメール添付にてJPEGデータで画像をお送りいたします。

なお、本展紹介記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、掲載前に校正紙をお送りください。また、発行後、掲載誌を1部お送りください。

#### 【広報用画像貸出条件】

- ◆画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ◆画像のトリミング、画像に文字を重ねるレイアウトはお控えください。
- ◆画像データは、ご使用后必ず消去してください。
- ◆画像データを第三者に渡すことを禁じます。
- ◆インターネット上で掲載する場合には、画像をコピーできないよう処置し、会期終了後はWEBサイトから必ず削除してください。

雑誌名・番組名・WEBサイト名 : \_\_\_\_\_

媒体種別 : 新聞・雑誌・フリーペーパー・テレビ・ラジオ・WEBサイト \_\_\_\_\_

発売・放送・更新予定日 : \_\_\_\_\_

御社名 : \_\_\_\_\_

御担当者名 : \_\_\_\_\_

御住所 : \_\_\_\_\_

Eメールアドレス : \_\_\_\_\_

電話番号 : \_\_\_\_\_

FAX番号 : \_\_\_\_\_

画像（コピーライトクレジットがあるものは、必ず画像掲載時に付記してください）

- 画像1 展覧会ポスター \*P1掲載
- 画像2 ©Osamu Harada / Koji Honpo \*P2掲載
- 画像3 「an・an」第47号 1972年 平凡出版  
アートディレクション:堀内誠一 表紙イラストレーション:原田治 \*P3掲載
- 画像4 スクールバッグ 1980年代 ©Osamu Harada / Koji Honpo \*P3掲載
- 画像5 浅田彰『逃走論』1984年 筑摩書房 装幀:原田治 \*P4掲載
- 画像6 HUMPTY DUMPTY(OSAMU GOODS用原画) 1970年代後半 \*P7掲載